

2019.7 No. 43



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

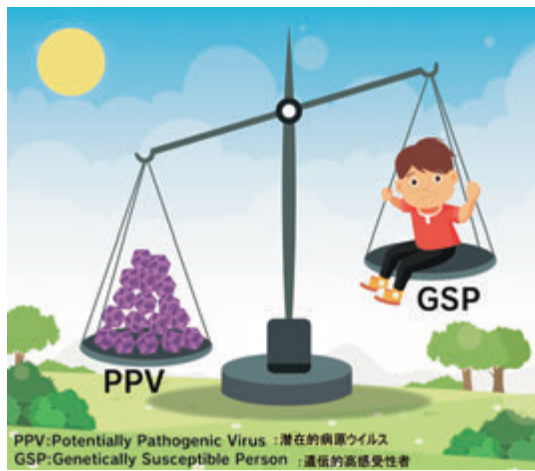
1型および2型糖尿病の発症率低下を目的としたエンテロウイルスワクチン開発研究

発熱、咽頭痛、腹痛、下痢など、いわゆるインフルエンザ様症状から1型糖尿病を発症することがあることは良く知られていて、ポリオと同じピコルナウイルスに属する腸管ウイルス(エンテロウイルス…6種のコクサッキーB群ウイルス)がその主要な原因であると考えられています。我々は、世界で初めてマウスとヒトに共通するウイルス糖尿病感受性遺伝子を同定し、1型糖尿病(オッズ比2.4)のみならず2型糖尿病(オッズ比2.0)のリスクである



肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授 永淵 正法

ことを報告しました(Nat Commun 2015, EBioMedicine 2015, 2017)。そこでウイルス糖尿病に高い感受性を有するヒトと相似のモデルマウスを作成することにより、糖尿病を誘発するウイルスを高い感度で同定する研究を行っています(EBioMedicine 2018, J Med Virol 2019)。将来、そのウイルスに対するワクチンを開発できれば、1型糖尿病および2型糖尿病の発症率低下に繋がることが期待できます。



PPV: Potentially Pathogenic Virus : 潜在的病原ウイルス
GSP: Genetically Susceptible Person : 遺伝的高感受性者

災害時患者支援アプリの開発



高度救命救急センター センター長 阪本雄一郎

佐賀大学医学部附属病院は県の災害拠点病院として、万一の災害時には怪我をした患者さんの治療のみならず、避難所等で生活される災害弱者の支援を行う必要があります。DMAT(災害派遣医療チーム)を複数有する当施設は、過去の災害において様々な被災地にDMATを派遣してきた経験を持っています。それらの経験の中で感じるのは、災害弱者の状況や場所の把握の難しさ、被災に伴って持病が悪化する二次的健康被害への対策の難しさです。これらの問題を解決する一つの方法として、あらかじめ患者さんから健康情報を提供して頂き、佐賀大学医学部附属病院施設内に設置した災害情報支援センター(仮称)で管理、災害時にはその情報を最大限に活用するという構想です。また、その入力デバイスとしてスマートフォンを利用することで、GPS機能(衛星利

用測位システム)による患者さんの避難場所の特定や、被災による薬剤紛失情報も受け取ることが出来ます。第1弾は糖尿病患者さん向けの「糖尿病患者支援アプリ」で、内服薬の情報をスマートフォンのカメラを利用してQRコードで簡単に登録する事が出来ます。災害時には、インスリンなどの休薬が危険な薬剤の紛失情報をいち早く把握し、GPSを活用した早期の援助につなげる事が出来ます。現在開発を進めている糖尿病患者さん向けのアプリでは、人工呼吸器や電力などのライフライン情報と、避難に支援が必要かどうかなどを確認する事で、地域における効率的な共助の実践を目指しています。これらの活動を継続する事で、佐賀県にお住まいの住民に安心安全を提供出来るよう、今後とも努力して参りたいと考えております。

(文責: 助教 三池 徹)

糖尿病患者支援アプリ



- ・ 入力初期画面
- ・ 薬剤情報取得画面
- ・ 災害時入力画面
- ・ QRコードで簡易入力
- ・ 薬剤の紛失や位置を送信

就任挨拶



先進不整脈治療学講座 教授 山口 尊則

この度、先進不整脈治療学講座教授に就任いたしましたのでご挨拶申し上げます。2002年防衛医科大学校卒業後に防衛省で勤務し、2015年に佐賀県医療センター好生館、2017年に米国ユタ大学での勤務を経て、2018年8月から佐賀大学循環器内科、そして本年4月より現職を拝命いたしました。本講座の使命は、臨床・基礎研究を通して、不整脈診療の進歩に貢献することです。同時に、佐賀県での安定した不整脈診療体制を築き、将来の不整脈専門医を育てることと考えております。

昨年8月以降、佐賀大学での不整脈診療・カテーテルアブレーション体制の構築に際し、県内外の病院や診療所、医師会の先生方、そして様々な診療科や部門の皆様にご協力頂きました。お陰様で、週2回の不整脈専門外来、月20〜30例のカテーテルアブレーション、そして植え込み型除細動器などデバイス治療など、安定した不整脈診療体制が整いつつあります。この場を借りて心より感謝申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

就任挨拶



先進、心不全医療学講座 教授 琴岡 憲彦

平成31年2月1日付けで、先進心不全医療学講座(寄附講座)の教授に就任しました琴岡憲彦です。平成6年に佐賀医科大学を卒業しました。平成15年に国立循環器病センターレジデントを修了し、循環器内科医員として佐賀大学に戻って以来、野出教授の下で佐賀県の心不全診療をより良いものにするべく努力して参りました。平成20年にハートセンターが設立され、医師・看護師・薬剤師・ME・PT・OT・臨床心理士・栄養士など多職種で構成される心不全チーム医療の体制が次第に整い、平成26年には、心臓血管外科の先生方のご尽力によ

て植込型補助人工心臓実施施設となり、同年8月と9月に相次いで植込術が実施されました。昨年は待機患者さんを心臓移植に送り届けることができましたが、その一方で、本講座では慢性心不全における緩和ケアの普及を使命としています。近年、心不全診療において緩和ケアは大きなトピックとなっており、昨年の診療報酬改定では末期心不全に対する緩和ケア加算も新設されましたが、まだまだ普及には程遠い状況です。緩和ケアチームのお力を借りながら今後も努力して参りますので、何卒よろしくお願致します。

1型および2型糖尿病の発症率低下を目的としたエンテロウイルスワクチン開発研究

永淵 正法

災害時患者支援アプリの開発

阪本雄一郎

就任挨拶

山口 尊則・琴岡 憲彦

診療科紹介

麻酔科蘇生科



教授 坂口 嘉郎

麻酔科蘇生科は病院の中央診療部門として、手術患者の麻酔管理、集中治療室における重症患者を担当しています。ペインクリニック・緩和ケア科も麻酔・蘇生学分野の診療部門であり、一体となって診療に従事しています。

【手術麻酔】

病院再整備事業の第一段階として2014年1月、南新棟の中に新しい手術室が稼働し、2015年11月には既存棟の手術室も改修され、最新の機能を備えた全14室の手術室となりました。手術室環境が整うとともに手術件数は徐々に増大し、2018年度は6,991件、うち麻酔科蘇生科が麻酔管理した手術症例は4,747件でした。

内視鏡を用いる低侵襲手術、ダ・ヴィンチを用いるロボット手術、多軸血管撮影装置を用いるス TENT内挿術や血管内手術、経カテーテル的大動脈弁移植術、ナビゲーションを用いる手術、覚醒下開頭手術など高度で先進的な手術の症例数が増えています。予備能の低下した高齢者に対する手術適応も拡大しています。また、麻酔法ではエコーガイド下末梢神経ブロックを手術麻酔に活用し、周術期鎮痛法の選択肢を広げています。手術



▲朝カンファレンスの様子

侵襲から患者さんを守り、手術後の改善に寄与できるように、最適な麻酔を提供すると同時に効率的に手術部を運営する努力をしています。

【集中治療】

集中治療部（ICU・CCU）では、南新棟内に10床を有しています。再整備により6床から拡張されました。2018年度の入室患者数は626名で、その内訳は手術後患者（心臓血管外科手術、脳神経外科手術、食道がん手術など）、敗血症、呼吸不全、心不全、腎不全などの重症患者です。集中治療専従医師が担当診療科と協力して、患者管理に当たっています。

看護の日イベント

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲール。彼女の誕生日である5月12日を「看護の日」として、1990年から全国で看護に関する様々な取り組みが行われています。

当院でも5月17日（金）10:30～13:30に、総合外来の一部のエリアでイベントを行いました。今年のテーマは「看護の心をみんなの心に」。そこで、一般市民の方にも耳慣れた言葉になりつつある「AED」の体験を行い、たくさんの方が参加されました。触ったことのないAEDを前にして、初めは恐る恐る操作されていましたが「経験できてよかった。1回経験しておくのとそうでないのでは、実際必要になった時に全然違うと思う。」という声が多く聞かれました。

また、管理栄養士による「災害時の食の準備」コーナーを設けました。佐賀でも地震などの災害に備える動きが増えつつある今日、興味深く参加される方が多かったです。他にも様々なコーナーを設け、外来患者さんやそのご家族など計146名の方に参加していただきました。



▲AEDの体験



▲災害時の食の準備

さが健康企業宣言

保健管理センター

副センター長 尾崎 岩太

この度佐賀大学医学部及び附属病院が「さが健康企業宣言」を行い認定されました。最近では業種の如何を問わず働く人の健康が重要視されるようになっていて、従業員の健康を保つ経営（健康経営）を行うことができる企業がより持続的に業績を上げることができると認識され、健康経営を実践できる企業に対する評価が高まっています。

特に医療機関では患者さんの診療に当たるスタッフが身体的にも精神的にも健康であってこそ優しく良い医療が提供可能になります。医学部及び附属病院でもこれまでに増して職員の健康管理に力を入れていくことを宣言し、産業医・安全衛生委員会スタッフを中心にさらに健康の保持・増進に力を入れていく所存です。



▲左から 杉岡産業医 江村産業医 尾崎産業医 市場衛生管理者

県民公開講座のご案内

令和元年

9月14日 土

開場 13:00～(終了予定)
開演 13:30～16:10

入場無料



佐賀大学医学部附属病院臨床講堂(臨床大講堂)

がんは日本人の死因の第1位であり、生涯に2人に1人はがんになると言われています。今回の県民公開講座では、重粒子線で先端がん治療・研究に取り組んでいる九州大学放射線科の医師が最新のがん治療を紹介します。また、当院での放射線療法の現状と最近保険適用になったがんゲノム医療の取り組みについても紹介します。

開会・挨拶	13:30～13:35
第1部 本院のがんゲノム医療について 放射線治療の進歩、これから	13:35～14:15
休題	14:15～14:30
第2部 特別講演 重粒子線がん治療の今とこれから	14:30～15:30
第3部 質疑応答	15:30～16:10

●申し込み先・お問い合わせ

佐賀大学医学部附属病院 がん相談支援センター
〒849-8501 佐賀市鶴島五丁目1番1号
TEL.0952-34-3113 FAX.0952-34-2071



連携病院紹介

国立病院機構 佐賀病院

院長 円城寺昭人

【病院の紹介】

当院は2023年に開催される『国民スポーツ大会』に向けて改修工事中のSAGAサンライズパーク(旧佐賀県総合運動場)前に位置する、ヘリポートを備えた292床の急性期病院です。地元の方々には国立病院の愛称(現在はNHO)で親しまれています。周産期新生児医療では3次医療施設として佐賀県の中核的役割を担い、また中部医療圏2次救急病院として、3次の佐賀大学附属病院、佐賀県医療センター好生館について内科、外科、整形外科疾患などの救急患者を受け入れております。

【本院との連携の状況】

当院での対応が困難な症例は佐賀大学附属病院に受け入れていただいています。また救急医療の一端を担うべく、昨年度から高度救命救急センターの阪本教授他教官の先生方に当院での救急医療の研修をお願いし

ており、職員の救急対応のスキルアップにご協力いただいております。当院は佐賀大学医学部の臨床実習病院としても5年生、6年生を毎年30名近く受け入れており、また多くの初期臨床研修医も佐賀大学から研修に来てもらっています。今後も佐賀大学附属病院との連携を深めながら、地域医療に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

